

第2回東久留米市地域包括支援センターあり方検討委員会次第

日時 令和元年7月17日（水）午後3時から4時半
場所 701会議室

配布資料の確認

- 1 地域包括支援センターの日常生活圏域について（以下包括）
- 2 包括の経営資源配分について
- 3 26市アンケート調査について
- 4 その他

【配布資料】

資料1-1：日常生活圏域

資料1-2：高齢者の行動範囲

資料1-3：東久留米市の人口推移

資料2-1：包括の仕事量分析

資料2-2：平成30年度高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律
に基づく対応状況に関する調査・・・・・・（省略）

資料3：アンケート調査について

参考資料1：「地域包括支援センターの設置運営について」の一部改正について（省略）

参考資料2：地域包括支援センターに関するQ&A（省略）

日常生活圏域の考え方

<国の示す位置づけ>

- 「30分以内で駆けつけられる」範囲
- おおむね中学校区のイメージ

<市内の圏域を二層で区分しなおす>

	定義	サービス例	圏域数
第一層	<ul style="list-style-type: none"> • 広域サービス • 居住系サービス • 訪問系サービス 	<ul style="list-style-type: none"> • 介護老人福祉施設 • 介護老人保健施設 • 認知症対応型共同生活介護 • 訪問介護事業所 • 訪問看護事業所 • 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 • (第一層協議体) 	1
第二層	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅系サービス • 通所系サービス • 介護予防事業 	<ul style="list-style-type: none"> • 居宅介護支援事業所 • デイサービス • 短期入所生活介護 • (地域ケア会議) • (第二層協議体) 	「 」

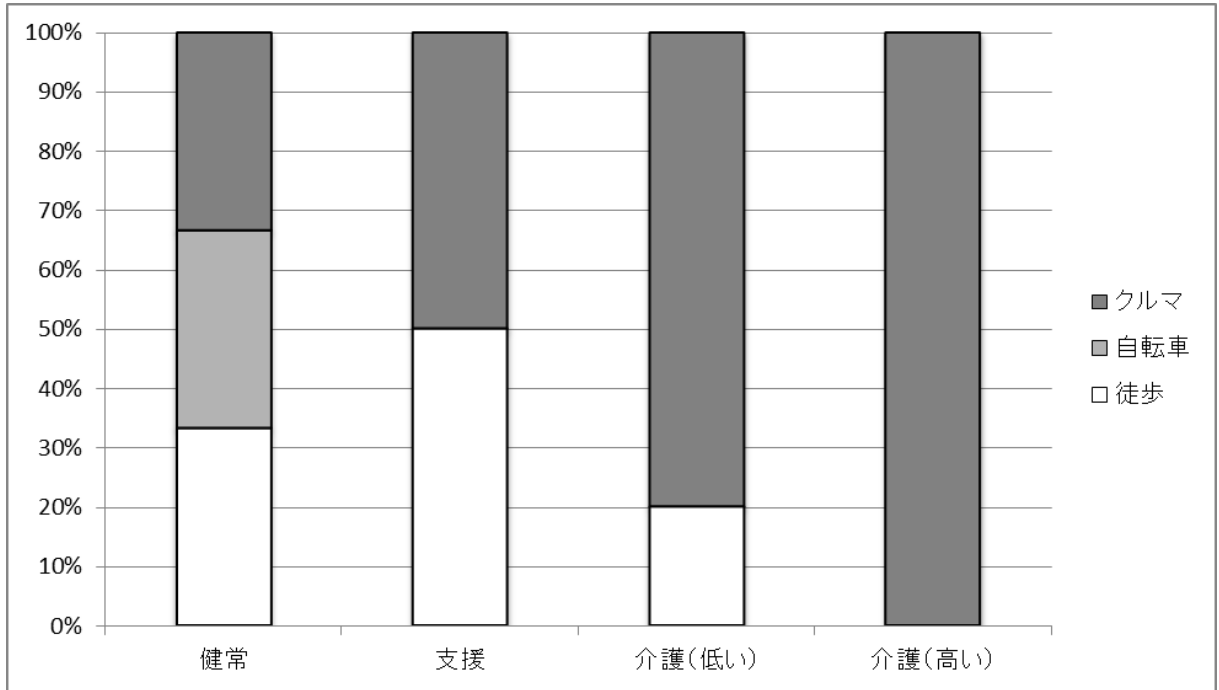
※看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護の位置づけ「未定」

<第二層圏域の分割数は以下の案が考えられる>

1. 現状通りの・・・3圏域（東、中、西）
2. 単純増の・・・4圏域（東、北、南、西）
3. 理論値中学校区・・・5圏域（ ）
4. 特養数・・・6圏域（ ）
5. 中学校数・・・7圏域（中学校区）
6. 都市マス・・・8圏域

高齢者の行動範囲

交通手段(イメージ)



30分で移動できる距離 (km)

	健常	支援	介護低	介護高
クルマ	15	15	15	15
自転車	8	-	-	-
徒歩	2	1.5	1.0	-

- 介護度が高くなるにつれ、移動距離は伸びる
- 介護サービスに生活圏域の概念は不要
- 「高齢者のコミュニティ」 = 「日常生活圏域」と捉えるならば、介護予防には生活圏域の概念が必要

令和元年7月17日
 第2回地域包括支援センター
 あり方検討委員会
 資料1-3（議題2関係）

■東久留米市の人口推移

時点 エリア	2018.1.1			2019.1.1			2025.10.1		
	人口 (単位：人)	65歳以上人 口 (単位：人)	高齢化率 (65歳以 上)	人口 (単位：人)	65歳以上人 口 (単位：人)	高齢化率 (65歳以 上)	人口 (単位：人)	65歳以上人 口 (単位：人)	高齢化率 (65歳以 上)
東久留米市	116,830	32,648	27.94%	116,896	32,880	28.13%	111,726	32,981	29.52%
東部	30,810	7,983	25.91%	30,716	8,032	26.15%			
中部	43,672	11,546	26.44%	43,835	11,621	26.51%			
西部	42,348	13,119	30.98%	42,345	13,227	31.24%			

東部： 上の原・神宝町・金山町・氷川台・大門町・東本町・新川町・浅間町・小山

中部： 学園町・ひばりが丘団地・本町・幸町・中央町・南沢・前沢一丁目から三丁目・南町

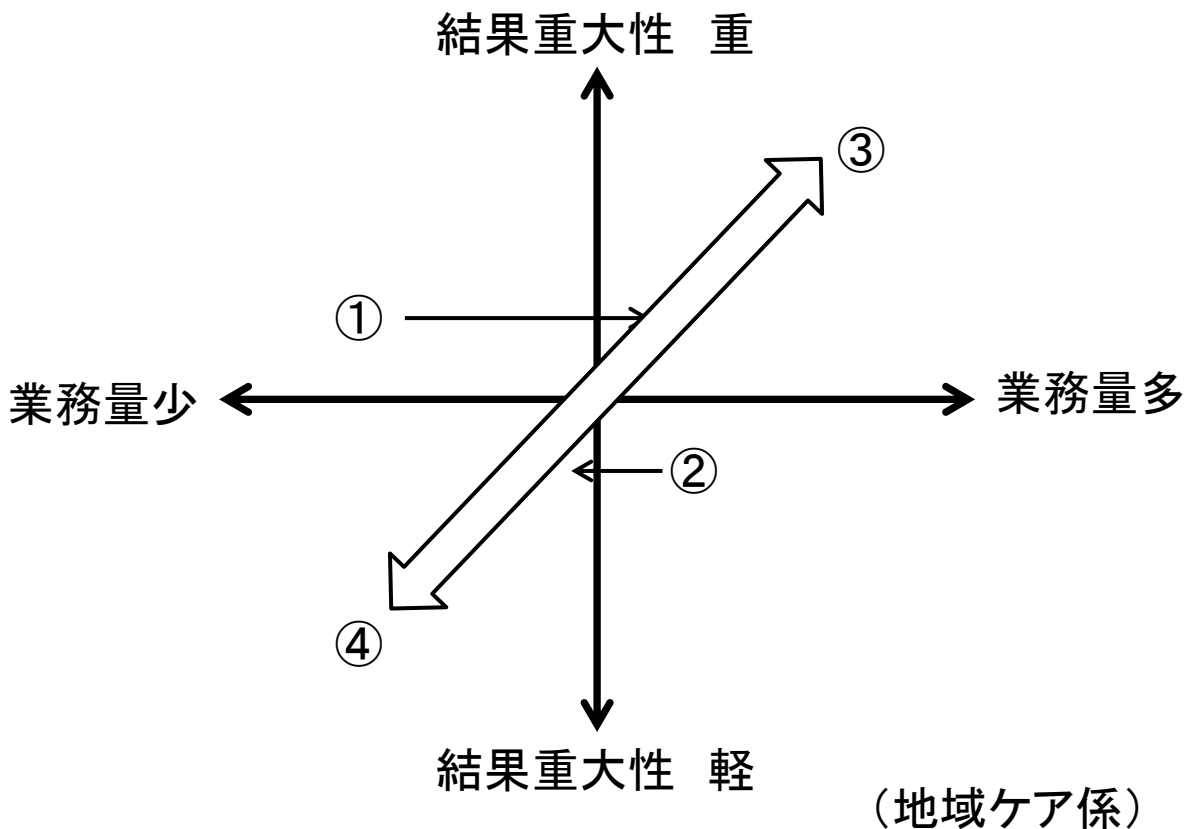
西部： 前沢四丁目から五丁目・滝山・下里・柳窪・野火止・八幡町・弥生

地域包括支援センターの仕事量分析

＜4大事業を業務量と結果の重大性で評価＞

- ① 介護予防
- ② 総合相談
- ③ 権利擁護
- ④ ケアマネジメント支援

＜介護福祉課の評価＞	
結果重大性	③ > ① > ② > ④
業務量の多さ	③ > ② > ① > ④



地域包括支援センターの仕事量分析

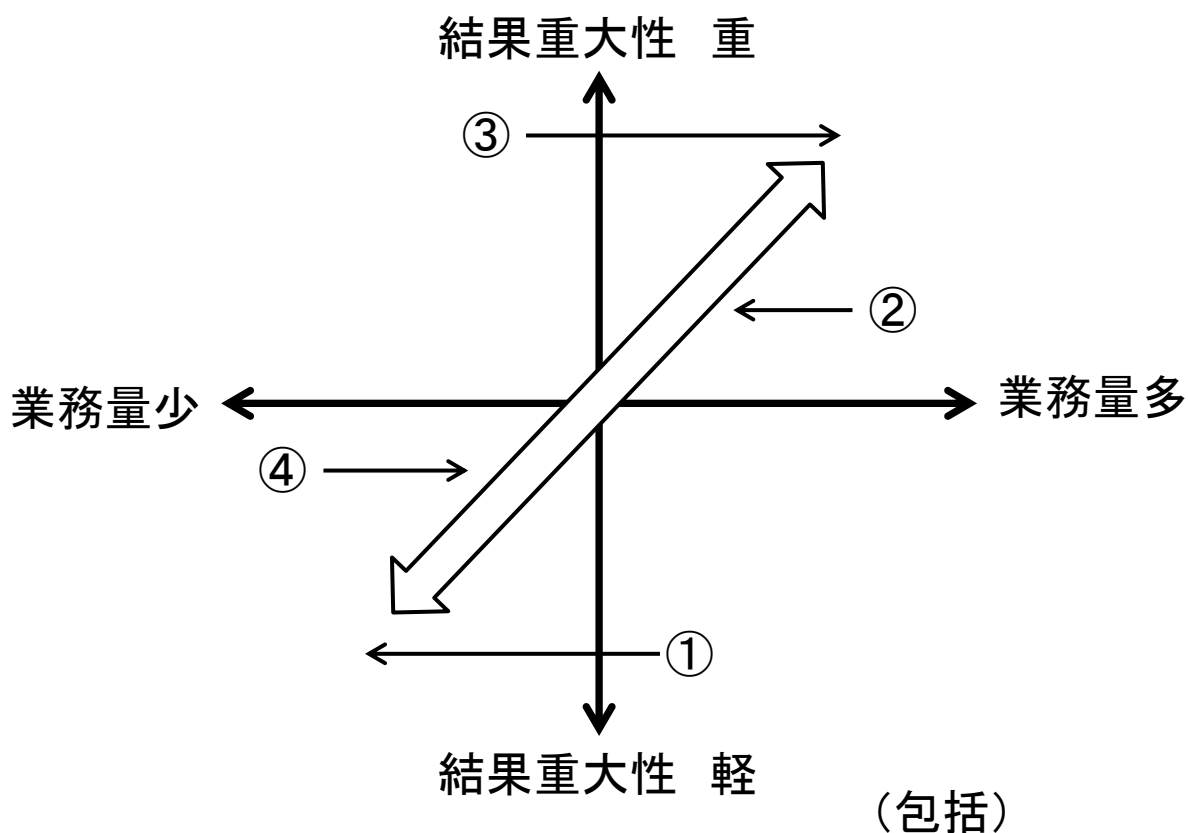
＜4大事業を業務量と結果の重大性で評価＞

- ① 介護予防
- ② 総合相談
- ③ 権利擁護
- ④ ケアマネジメント支援

＜地域包括支援センター長の評価＞

結果重大性 ③ > ② > ④ > ①

業務量の多さ ② > ① > ③ > ④



資源(ヒト、モノ、金、時間)の 配分先を精査して効率を上げる

	市	包括
①介護予防	「増やす」	「大きく減らす」
②総合相談	「減らす」	「減らす」
③権利擁護		「大きく増やす」
④ケアマネジメント支援		「増やす」

導き出される「課題」

<戦略が一致するもの>

- ・ 総合相談に係る業務を効率化すること

総合相談の効率化を検討する
必要がある

<戦略が大きく異なるもの>

- ・ 介護予防にさらに注力すべきかどうか

「介護予防」の重要性を市と
包括で一致させる必要がある

アンケート調査について

<高齢者向けアンケート>

現在コンサル選定中

- ①65歳以上高齢者 4,000 (MAX)
- ②在宅サービス利用者 2,000 (MAX)

利用率

利用形態

包括への要望 →

コストを上手に公開しながら、無制限な
要望にならないように設問を設定したい
(コンサルのマーケティングのノウハウ必要)

<26市向けアンケート>

職員定着のための試み

介護保険計画策定に包括が参画しているか

コストパフォーマンス(予算/高齢者人口)